

I. 研究の概要

1. 研究主題・副題

進んで考え，学び合う矢田野っ子の育成

～確かな言葉の力を育む国語科の授業づくりを中心に～

2. 主題・副題設定の理由

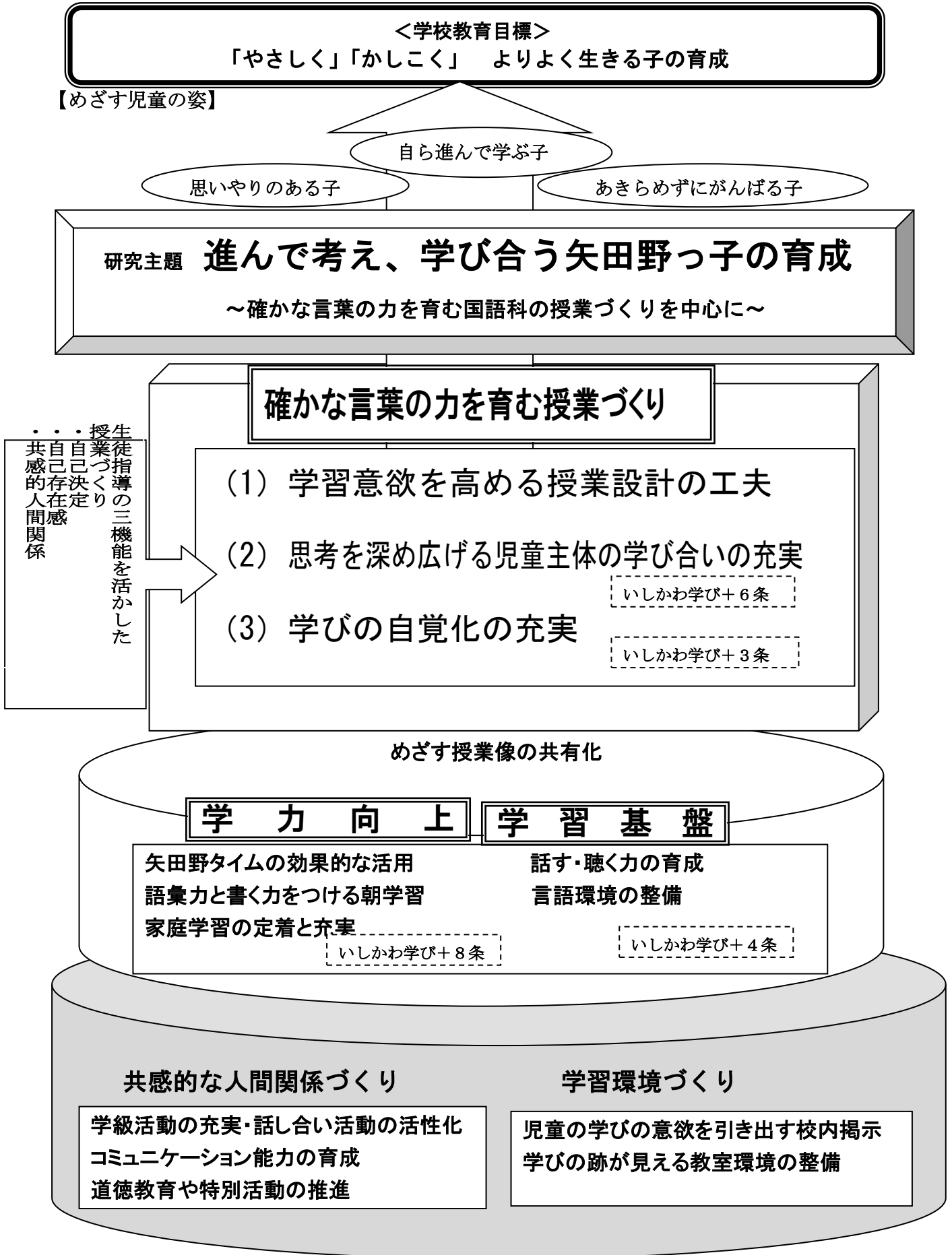
本校は、『やさしく』『かしこく』よりよく生きる子の育成」という教育目標のもと、「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を目指している。

本校児童は、これまでの学力調査の結果から、全体的に基礎・基本の力が不足していること、合わせて活用する力も不足していることが分かり、授業改善や朝学習・帯タイムを活用した学力向上に努めてきた。児童は課題に向き合い、解決しようとするものの、語彙不足・論理的な思考力が乏しいがために、大筋で理解できているものの、課題に対する明確な解答ができなかったり、そもそも題意を捉えられず、問題に意欲的に向き合えなかったりする児童もいる。これらのことから、本校児童がまずつけるべき力は、言葉の力であると考え。児童に確かな学力をつけていくためには、まず、言葉がもつよさを認識させるとともに、言語感覚を養っていくことが大切であると考え、昨年度より、国語科を軸に学校研究を推し進めている。

昨年度1年間、児童の言葉の力を育むべく、「つけたい力」を明確化させ、教師と児童が共有化して単元の見通しを持って学習を進めていった。また、その力をつけるためのねらいに迫る必要感のある学び合いとなるよう手立てを講じてきた。ペアやグループでの学び合いでは、徐々にではあるが、児童の中に友達のことを聴きたいという思いが浸透し、主体的に学び合う姿がみられるようになってきている。一方で、自分の考えを持っているものの、表現できずにいる児童もいる。また、聴きっぱなしになってしまうことが多く、互いに質問し合い深めようとするまで至っていない。そこで、昨年度に引き続き、児童に、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成していく必要性を感じている。

そのためには、まず、児童の言葉の力を養うことが重要である。特に論理的な読みにつながる言葉の力をつけていきたい。そこで、今年度は、特に説明的な文章に焦点化していく。教師は、児童が「進んで」考えたいくなる必然性のある学習課題を設定し、児童が目的意識を持った主体的な読みを進めていけるような授業を作っていく。それにより「つけたい力」を身につけ、さらに、児童の思考を深めるための効果的な学び合いに発展していくと考える。

3. 研究全体構想図



4. 研究の重点と検証

	重点	目指す児童の姿	検証（方法）
①	「つきたい力」を明確にした授業設計	単元のねらいをつかみ、単元の見通しを持って学習を進めることができる。	児童アンケート 授業力向上シート
②	ねらいに迫る必要感のある学び合いの工夫	目的意識を持って児童主体の学び合いをすることができる。児童同士で質問し合い深めることができる。	児童アンケート 授業力向上シート
③	学びの自覚化の充実	1時間の学びや、単元毎の学びや成長を振り返り、表現することができる。	チェックシート 授業力向上シート お宝帳
④	学習の基礎づくり・聴く力の育成	当該学年の漢字や言葉の使い方を身につける。 主体的に聴くことができる。	単元末・学期末テスト 児童アンケート 授業力向上シート

5. 研究内容

研究チーム

(1) 授業づくりチーム・・・リーダー： 谷口

安原・三島・長清・向出・岩脇・東・西井

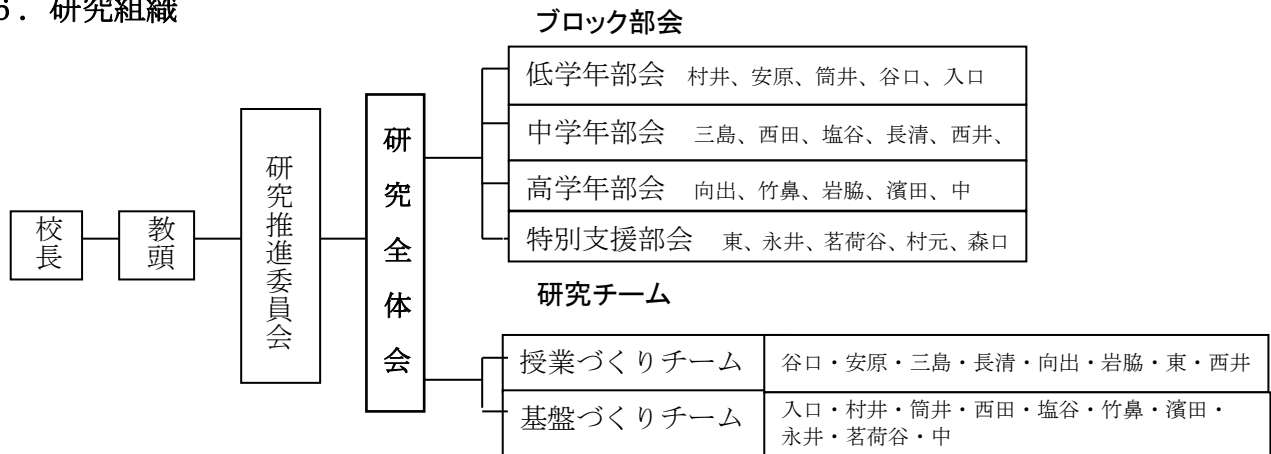
- ① 「つきたい力」の共有化、系統化・・・系統表の作成
- ② 言語活動の検討と蓄積・・・検討会のコーディネート、成果物の交流・管理
- ③ お宝帳の活用・・・実践の蓄積、内容の交流
- ④ 学び合いの活性化・・・話し合い活動の活性化につながる提案、呼びかけ
- ⑤ 矢田野っ子学びのスタイルの定着と充実・・・定着に向けた呼びかけ、アンケートなど

(2) 基盤づくりチーム・・・リーダー： 入口

村井・筒井・西田・塩谷・竹鼻・濱田・永井・茗荷谷・中

- ① 語彙力と書く力をつける朝学習・・・朝学習の提案、コミュニケーションタイム
- ② 矢田野タイムの効果的活用
- ③ 家庭学習の定着と充実・・・自学ノートの推進、強化週間
- ④ 主体的に聴く・話す力の育成・・・集会、言葉遣い、スピーチ
- ⑤ 言語環境の整備・・・掲示物の整備

6. 研究組織



- 研究推進委員会 研究推進のための原案作り
部会・専門部会のリーダーを担う
 - 研究全体会 授業研究を中心に（事前研・整理会）協議や学習会をし、
共通理解の場とする。
 - 部会 教材研究・指導案の検討・児童の実態把握など
 - 研究チーム 「授業づくり」「基盤づくり」のチームに分かれる。
計画的・継続的な取組の企画立案。
- *研究部，研究全体会，各部会を定例化し，共通理解の場とする。
*各チームは必要に応じて，校長・教頭・研究主任を加えて研究を行う。

7. 研究方法

- (ア) 研究推進委員が中心となり，各部会の連携を図りながら研究実践を進める。
- (イ) 研究全体会では，研究授業や模擬授業，ワークショップ型整理会等を行い，共通理解を図りながら進めていく。
- (ウ) 授業研究を中心に実践を進めていく。
★言語活動検討会→指導案検討（部会）→*事前授業（部会）→ 研究授業→
→整理会（部会）→ふり返り・改善指導案の提示→*改善授業の実施（部会）
*は授業者と同じ学年の担任で，どちらか一方行う。
- (エ) 1人1研究授業（全体研究授業または部会授業）を行い，授業力向上に努める。

8. 研究計画

学期	月	内 容
一 学 期	4	研究の基本構想の決定・研究授業計画、 「つきたい力」, 「矢田野っ子学びのスタイル」の共通理解と共通実践
	5	提案授業（2学年） 指導案形式の確認 部会授業（5学年） 部会授業（6学年）
	6	<全体研究授業 3学年> 部会授業（1学年） 部会授業（4学年）
	7	1学期の検証と改善の検討
	8	校内研修会・学習会・2学期に向けての教材研究・指導案検討
二 学 期	9	部会授業（2学年）
	10	部会授業（6学年） 2学期の中間検証と改善の検討
	11	<全体研究授業 5学年> 部会授業（1学年） 部会授業（3学年） 部会授業（4学年）
	12	2学期の検証と改善の検討
三 学 期	1	研究のまとめ作成
	2	今年度の反省
	3	次年度の方向づけ